

「やんばるの産業まつり」に参加して完了した国営事業をPR

「第35回記念やんばるの産業まつり」が、令和元年10月12日(土)、13日(日)の2日間、名護市の21世紀の森を会場として開催され、沖縄総合事務局(農村振興課、土地改良総合事務所)と関係土地改良区(羽地大川地区、伊是名地区、伊江地区)が共同でブースを出展しました。「やんばるの産業まつり」は、沖縄本島北部の12市町村で構成する北部振興会の主催で、室内運動場では北部各市町村、行政機関、学校関係、JAおきなわ、企業などが約30のブースを設けています。

沖縄総合事務局は、第12回に羽地大川農業水利事業所が出展して以来参加しています。出展したブースではパネルや模型を展示するとともに、局と土地改良区の説明者が常駐して、地域で実施してきた国営事業の内容や効果、土地改良区の役割、沖縄における「多面的機能を活かした活性化事例」等についてPRしました。



ていることをアピールしました。

屋外広場では北部市町村、名護市友好都市、奄美群島の企業による特産品販売や、ステージでは、伝統芸能の催しなどが、毎年盛大に繰り上げられています。

また、まつり会場で販売されていた特産品の中には、国営受益地内で生産された野菜やシークワサーを使ったジュースも見られました。

当事務所では、今後とも関係土地改良区と連携して、地域での土地改良事業への関心を高める取組を継続していきたいと思います

産業まつりの来場者は、農家よりも児童や一般の人たちが圧倒的に多く、大規模な農業用水供給システムを構築した国営土地改良事業を知らない人がほとんどでした。国営事業が地域の農業の高度化を支えているだけでなく、耕土流出防止による羽地内海の保全にもつながっているとの説明に、一様に好意的な反応を得ることができました。それに併せて、事業完了後も、施設の機能診断や水を使った営農の展開状況の確認などの形で、「やんばるの農業の振興」に国も関与し続け

